

審 査 講 評

本共励会は、家畜改良事業団の種雄牛を使用した受精卵移植により生産・肥育された黒毛和種の枝肉を広く需要者にアピールし、受精卵による黒毛和種の生産振興に寄与することを目的に開催されました。

第 37 回目のこの共励会が、かくも盛大に開催されましたことは、出荷者、生産者の皆様の日頃のご努力と主催者であります畜産ニューテック協会ならびに家畜改良事業団、東京食肉市場他、関係各位の皆様のご尽力の賜物と敬意を表するとともに喜び申し上げます。

本共励会の審査員を拝命いたしましたので、審査員を代表いたしまして出品牛の概要と審査結果についてご報告いたします。

今回の共励会には 12 出荷団体、14 生産者様から黒毛和種 58 頭の出品があり、去勢牛が 51 頭、雌牛が 7 頭という内訳でした。

格付結果は、去勢牛は A5 が 34 頭、A4 が 17 頭、雌牛は A5 が 6 頭、A4 が 1 頭で、4 等級以上が去勢牛、雌牛ともに 100%、5 等級は去勢牛で 66.7%、雌牛で 85.7%というすばらしい成績でした。

【去勢牛 51 頭の格付結果】

	枝重	ロース	ばら	皮下	基準値	A 率	5 等級	4up	BMSNo.
今回	558.5	76.8	8.3	2.4	75.8	100.0	66.7	100.0	8.9
前回	548.3	69.9	8.5	2.5	75.0	95.3	60.5	100.0	8.4
最大	689.0	115.0	10.0	3.7	81.1				
最少	455.0	55.0	7.0	1.5	72.3				
全国	500.3	62.8	8.0	2.5	74.5	93.5	39.0	80.4	7.1

※前回は、平成 30 年 3 月 2 日開催第 35 回受精卵産子と牛枝肉共励会の数値。

※全国は、平成 29 年度の全国平均値（平成 29 年度牛枝肉格付情報 CD より）

以下、同じ。

去勢牛の枝肉重量は、最も大きいもので 689 kg、小さいもので 455 kg、平均 558.5 kgとなっており、これは 29 年度の全国平均 500.3 kgと比べて、50 kg以上大きな重量の枝肉が出品されていたこととなります。

また、胸最長筋面積も大きいもので115 cm²、小さいもので55 cm²、平均76.8 cm²と、昨年度の全国平均62.8 cm²よりかなり大きな数値となっています。ばらの厚さについても厚いもので10.0 cm、平均8.3 cmと、こちらも昨年の全国平均8.0 cmより大きい数字になっており、肉量の期待できる厚みのあるしっかりした体型の枝肉が多く見受けられました。

また肉質面では、5等級の条件であるBMSNo.8以上のものが66.7%と高い割合を占めており、このことは肥育技術の高さの証しであると大いに評価したいと思います。

【雌牛7頭の格付結果】

	枝重	ロース	ばら	皮下	基準値	A率	5等級	4up	BMSNo.
今回	521.7	78.9	8.3	3.3	75.7	100.0	85.7	100.0	10.1
前回	506.7	70.8	8.6	2.9	75.4	94.1	52.9	94.1	8.0
最大	602.0	94.0	9.2	4.2	78.7				
最少	427.0	66.0	7.7	2.5	73.4				
全国	432.0	57.8	7.5	2.8	74.0	80.1	28.3	62.5	6.2

雌牛については、出品頭数が7頭と少ないですが、平均重量は521.7 kg、胸最長筋面積は大きいもので94 cm²、小さいもので66 cm²、平均78.9 cm²で、胸最長筋面積に関しては、今回出品の去勢牛の平均値を上回り、また、ばらの厚さも平均8.3 cmで、これも今回出品された去勢牛の平均値と同じ数値になっています。

一般に雌牛は去勢牛に比べて皮下脂肪が若干厚めになる傾向が見受けられ、今回の共励会では歩留等級がB等級になる枝肉はありませんでしたが、B等級になるような枝肉は買い手の評価も下がるので注意が必要です。

また、雌牛の肉質についてはBMSNo.8以上が85.7%と脂肪交雑の多く入った枝肉が多く、雌牛のBMSNo.の平均値は10.1で去勢牛の8.9を上回り、肉の色沢良く、きめの細かな雌牛らしい肉質の枝肉が目立ちました。

入賞牛については、最優秀賞1点、優秀賞3点、優良賞4点を選ぶということで、牛枝肉取引規格に基づく格付結果を参考に枝肉の姿かたち、切開面の脂肪交雑の形状や入り具合、ハシリ、腿の脂肪交雑の状態、「瑕疵」の有無などを総合的に判定し、各審査員が厳正に審査の上、決定いたしました。

審査の結果、最優秀賞には、上場番号 82 番、伊東牧場 伊東恭一 様 出品の去勢牛を選びました。

【最優秀賞】

上場番号	82	伊東牧場 伊東恭一 様「芳之匡、安福久」					
等級	BMS	BCS	重量	ロース	ばら	皮下	基準値
A 5	12	4	664.0	110	10.0	2.5	79.9

血統は「父：芳之国、母の父：安福久」、枝肉重量 664 kg、胸最長筋面積 110 cm²、ばらの厚さ 10.0 cm、BMSNo.12、BCSNo.4 で、胸最長筋面積は出品牛中 4 番目に大きく、ばらの厚さは最も厚いすばらしい体型、肉質の枝肉でした。特に切開面の僧帽筋、広背筋に厚みがあり、それぞれ 4.5cm、5.3cm で重量の大きな枝肉ではありましたが、腿が大きく、ロインに張りや厚みがある重量に見合った迫力ある体型の枝肉でした。

優秀賞 3 点については、上場番号 63 番 パシフィックファーム(株) 様 出品の去勢牛、上場番号 73 番 (株)日高見牧場 佐藤寿男 様 出品の雌牛、出品番号 114 番 (株)松永牧場 様 出品の去勢牛を選出しました。

【優秀賞】

上場番号	63	パシフィックファーム(株) 様「幸紀雄、安福久」					
等級	BMS	BCS	重量	ロース	ばら	皮下	基準値
A 5	12	4	665.0	115	9.5	2.1	80.5

胸最長筋面積が今回の出品牛の中で最も大きく 115 cm²で、最優秀牛と同じく切開面の胸最長筋以外の筋肉、特に僧帽筋や広背筋の厚い体型の良い枝肉でした。

上場番号	73	(株)日高見牧場 佐藤寿男 様「幸紀雄、安福久」					
等級	BMS	BCS	重量	ロース	ばら	皮下	基準値
A 5	12	3	484.0	93	8.2	2.5	78.7

枝肉各部の釣り合いが良い雌牛で、BMSNo.12、BCSNo.3、切開面に均一に脂肪交雑が入り、特に肉色、光沢良く、きめの細かな雌牛らしい肉質の枝肉でした。

上場番号	114	(株)松永牧場 様「美津照重、勝忠平」					
等級	BMS	BCS	重量	ロース	ばら	皮下	基準値
A 5	11	4	596.0	75	8.2	1.5	75.8

BMSNo.11 で、特にばらの腹鋸筋が厚く、無駄な脂肪付着のない肉量の期待できる枝肉でした。

優良賞 4 点については、BMSNo.10、No.11 と脂肪交雑が多く入ったいずれも甲乙つけがたい枝肉が多い中、BMSNo.だけでなく、肉質や体型等を考慮して票の多かった上場番号 88 番、97 番、109 番、111 番の枝肉を選出しましたので、それぞれ褒賞下さるようお願いいたします。

【優良賞】

上場番号	等級	BMS	BCS	重量	ロース	ばら	皮下	基準値
88	A 5	10	3	549.0	78	8.5	2.0	76.6
97	A 5	10	4	632.0	111	9.0	1.7	80.4
109	A 5	11	4	536.0	68	8.9	2.5	75.2
111	A 5	10	3	427.0	66	7.7	3.4	74.8

今回の共励会では去勢牛で BMSNo.12 の枝肉が 7 頭ありましたが、そのうち 5 頭に瑕疵があり、また雌牛についても BMSNo.12 の枝肉 2 頭中 1 頭に瑕疵があり、本来であれば当然上位入賞すべき枝肉ではありましたが、瑕疵があったことから惜しくも入賞を逃しております。(瑕疵発生率：去勢牛 29.4%、雌牛 28.6%)

【瑕疵発生状況】

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	計
今回		3	3	9	2		17
前回	1	2	6	1	1	3	14

瑕疵は、枝肉評価を大きく下げる要因となりますので、特に「アタリ(エ)」など避け得る瑕疵については、より一層慎重、丁寧な取り扱いで防いでいただきたいと思います。

最後になりますが、今回の共励会がこのように好成績をおさめられたのは、良い受精卵とそれを仕上げる生産者様の確かな肥育技術があつてこそその成果であり、家畜改良事業団の種雄牛を使用した受精卵が、さらに普及し、今後とも関係者の皆様がますますご発展することを祈念いたしまして、審査報告といたします。

平成31年3月8日

審査員 公益社団法人 日本食肉格付協会
東京事業所次長 及川 仁志